

## はじめに

兵庫県立大学環境人間学部人間形成コース准教授で生徒指導を専門とし、ネット問題・いじめ・不登校などの課題を持つ子どもへの対応方法について研究されている、竹内和雄先生を講師にお招きし、「スマホに潜む性！そのリスクと対策！」をテーマにお話しいただきました。ユニークな語り口調で来場者を惹きつけ、会場では何度か笑いが起こる場面もありました。以下に、竹内和雄先生の講演内容をまとめます。

## 現状について

### ○法律とインターネットの関係

つい先日、2016年5月21日に起こったアイドル殺傷事件……。被害者は、加害者からの度重なる過剰なツイッターの書き込みに対し、警察にSOSを出していました。なぜ未然に防ぐことができなかつたのでしょうか。また、これはアイドルだけの問題でしょうか。

世間では、ストーカーを認識していなかった警察が悪いと言われていています。しかし、警察は法律のもとに動いていましたが、今回の事件はストーカー規制法の「つきまとい」には当てはまらないのです。

ストーカー規制法の「つきまとい」とは、メール送信のことを指し、ツイッター等のSNSは含まれないためです。

つまり、法律が時代に追いついていないため、SNSを使用する場合は自衛が必要となります。しかし、自衛と言っても子どもたちは具体的にどうしたらいいかわからないため、大人たちによる具体的なSNSやインターネットの適切な使用法の教育が急務となります。

### ○小学校4年生男子(大阪)の将来の夢第3位は何でしょうか。

第1位 サッカー選手

第2位 医者

第3位

第4位 公務員

なんと、第3位は・・・ ユーチューバー

ユーチューバーとは、「YouTube」にオリジナルの動画を頻繁に投稿し、再生回数を伸ばして広告収入を得ている人を指します。子どもたちの中で有名なユーチューバー、HIKAKINは推定年収1億円を稼ぐと言われていています。

子どもたちはそのことをよく知っていて、「自分の父親は有名な大学を出ているが、年収1000万円。HIKAKINは高卒なのに、年収1億円。勉強ができなくても、お金を稼ぐことができる」と言うそうです。子ども達はいまこのような時代に生きているということを念頭に置き、子ども達の問題に対応すべきと言えます。

### ○全世界に広まる個人情報

子どもたちが軽い気持ちで撮った写真が大きな問題となりました。事例を出してお話しされました。

- ・1つ目は、中学生が酒に酔い、卒業記念に撮った、集団キス写真
- ・2つ目は、イスラム過激派組織(IS)による日本人拘束事件を連想させる写真

どちらも SNS に投稿した瞬間に、生徒の制服やジャージから学校名と名前を特定され、全世界に広まり、進路変更を余儀なくされた子どももいました。軽い気持ちで投稿した画像が、人生までも狂わせる結果になった事例も出てくる時代になりました。

### ○LINE 利用者の低年齢化

小学生の携帯所持率 15%に対して、毎日 LINE している小学生が 8 割いるといった現状があります。その理由は、iPod touch や音楽プレーヤー、親のスマホや iPad、3DS など様々な方法で LINE を利用することが可能だからです。

### ○今一番ダウンロードされているアプリケーション

・ツイキャス(ツイートキャスティング)：スマホで実況中継ができるアプリケーションのこと。なんでこんなことをするのか、高校生に聞いてみました。

→「寂しい?」「友達いない?」「親がほったらかし?」「ネットしか生きる意味がない?」寂しくなった時の逃げ場をツイキャスにしており、これを取り上げてしまうと、逃げ場をなくしてしまい心を乱す原因にもなり得ます。

- ・スマホ：出会い系アプリケーション

登録している近所の人が GPS 機能によって分かり、近くにいる人との距離が km で表示されます。

→スマホひとつで簡単に出会えてしまう時代となり、大人たちは時代の変化に驚かされますが、「子供たちにとっては当たり前のこと」となっています。

- ・鬼から電話

→子どもが言うことを聞かない時に、鬼から電話が掛かってくるという、しつけアプリケーション。年齢が下がるにつれて、こういったしつけ方法についての賛成が増えるといわれます。

### ○ケータイネイティブ 2 世の誕生

2014 年に猪名川町のすべての市町村の小中高で携帯不所持率を調査しました。携帯の不所持率は、小 1 71.9%、小 2 62.6%、小 3 50.5%、小 4 59.8%、小 5 60.0%という結果でした。なぜ小 3 から小 4 の間で不所持率が上昇したのでしょうか。

これは、親の世代の違いから、固定電話が減少し、スマホ所持率が上昇したため、1 人 1 台の携帯電話の所持が必要となり、子どもが外出する場合に持たせる仕組みとなってしま

いました。

○デート DV 被害に遭わないために・・・

高校生がアンケートを作成し、中高生男女 1000 人が回答した調査がおこなわれました。  
(2015 年 7～11 月実施)

①デート DV、知ってる？

中学男子 37.0%、中学女子 52.0%、高校男子 57.0%、高校女子 73.3%

②デート DV、相談できる？誰に相談する？

男女共に、1 位 友達、2 位 家族、3 位 警察、4 位 先生

③デート DV、経験ある？

・男子：1 位 暴言 33.7%、2 位 暴力 30.5%、3 位 LINE チェック 16.9%、  
4 位 性的強要 12.4%、5 位 お金要求 10.8%

・女子：1 位 暴言 32.9%、2 位 性的強要 16.4%、3 位 LINE チェック 15.8%、  
4 位 暴力 12.1%、5 位 お金要求 4.1%

④デート DV、イヤと言える？イヤと言えないかも・・・

・男子：暴言 30.3%、暴力 23.7%、LINE チェック 27.6%、性的強要 29.6%、お金要求 23.7%

・女子：暴言 21.9%、暴力 17.1%、LINE チェック 15.9%、性的強要 15.6%、お金要求 12.3%

⑤性的な写真、何度も頼まれたら撮らせる？

中学男子 7.4%、中学女子 2.0%、高校男子 23.1%、高校女子 16.7%

○この中で、いくつ逮捕・書類送検されるものがあると思いますか。

①この学校を爆破 (Twitter)

②友達のテストを写真 (Twitter)

③×××きしょい (LINE)

④(彼女の)裸の写真をスマホで撮影(のみ)

⑤付き合っくと、しつこくメール

正解は・・・全てです。

①威力業務妨害罪、②名誉毀損罪、③侮辱罪、④児童ポルノ禁止法、⑤ストーカー規制法  
に当たります。

○ネットで知り合う・会う

コミュニティーサイト等で、年間 1000 人以上の被害が出ています (警察庁調べ)。

加害者はほとんどが性交目的であり、犯行に及ぶまでの日数で一番多いのは、当日または翌日と言われます。被害者はなぜ会ってしまったのでしょうか。被害者たちは、「さみしかった」、「加害者は相談に応じてくれる優しい人だった」といいます。

## トラブルの事例

携帯トラブルの実例を3つ、実際のライン画面を使って紹介されました。

### ○小中学生のトラブル

LINEで「かわいくない」と発信した子がいじめられるといった事例がありました。「可愛くない」と断定したと捉えるか、「可愛くない？」と尋ねられたと捉えるか、相手によって捉え方が異なります。言葉の捉え方によるトラブルのため、大人が介入し、勘違いが解けたことで簡単に解決に導くことができました。

### ○高校生での事例

高校1年生の裕子(仮名)はクラスに友達がいない。SNSで知り合った同学年のさゆりだけが心を許せる友達であった。好きなバンドの交流サイトで知り合ったこともあり、毎日LINEのやりとりをしていた。いつもは裕子がさゆりに相談をしていましたが、初めてさゆりが裕子に相談をしてきました。

さゆり：「私、胸が小さくて悩んでるの」、裕子：「私も小さいから大丈夫よ!」、さゆり：「え〜ホント?写メで見せて!」、裕子：「恥ずかしいからブラの写メね」、さゆり：「私のも送るね!恥ずかしくないよ」。写真を交換し、これが大きなトラブルに発展する。

実は、さゆりは30代男性で、「全裸の写真を送れ!」、「送らないと、ばらまくぞ!」などと脅迫のLINEが届くようになった。

裕子はまず養護教諭に相談し、養護教諭から警察へ連絡、30代の男(さゆり)の逮捕に至った。

解決に導いた養護教諭の良かった点は、①じっくり待って話を聞いた②生徒指導につないだ③学年集会の言葉を一緒に考えたといった点です。

裕子の羞恥心に配慮し、先生が一人で暴走しないと理解させたことで、裕子に安心感を与え、解決に導くことができました。

### ○ネットで困ったら誰に相談する?

スマホ世代 : 1位 友達、2位 親、3位 警察、4位 先生

ガラケー世代 : 1位 親、2位 友達、3位 警察、4位 先生

なぜ、先生や親に相談しないのでしょうか。

子どもたちは、「だってどうせ知らないし」、「だって暴走するもん」、「だって聴いてくれない」、「だって自分の言いたいことだけ言う」と言います。

## まとめ

(1)子どもたちは本当は大人に聞いてほしいと思っています。

子どもたちに話してもいいと思われるためには、普段の言葉がけが重要です。

①いつでも相談に乗るよ

②勝手に暴走しない（相談し、子どもと話し合いながら）

③自分は知らないけど、知ってる人（相談口）を知ってるよ

(2)知ってる人になるために・・・(相談口を紹介できる人になるために・・・)

犯罪被害の場合は、「#9110」にかけると、最寄りの警察→サイバー犯罪対策課へ  
お金の問題は、「188」にかけると、最寄りの消費者センターへ  
専門の人が専門的に助けてくれるので、私たちは専門家（知ってる人）に適切に繋ぐことを求められています。


(3)今、夜中に出歩く子が非常に増えています。

寝屋川市で女の子と男の子が殺された事件を例に挙げ、夜中もLINEをしているため、「ちょっと出て来いよ」などの呼び出しで出ていってしまう子どもがいます。親が「どこへ行くの!」と止めても「LINEで連絡するから大丈夫」と言われ、親も納得し、外出を許可してしまいます。大人たちでさえ、子どもが外出することに対する危険意識が薄れているといえます。LINEには防犯機能はありません。殺されそうになった時に、LINEではすぐに助けを呼べません。LINEを過信しすぎている現状があります。

また、寝屋川教職員殺傷事件後には、抑うつ状態となって不登校になる子どもや、攻撃性が出現する子どももいました。子どもたちは心に問題を抱えていました。

2007年には、ある学校で1か月間に40件の生徒間暴力行為がありました。よくよく調べてみると、そのほとんどが携帯電話によるトラブルで、初めて携帯電話対策をおこなったところ、子どもたちのトラブルが一気に落ち着いたといった経験をしたそうです。

スマホの問題は、デジタルで難しいといいますが・・・

つまり、スマホの問題は  の問題なのです。

私たちが抱えている問題は、難しいようで、実はとても簡単なことなのかもしれません。スマホの文化はまだありません。今いる私たちが築いていくものなのです。